

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		東青葉にじいろさぽ〜とひろば			公表日		2026年 1月 22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・現在あるスペースに関しては、工夫して使用している。（棚の配置、可動式パーティションの使用など）	・事務室、相談室、静養室などの独立した個室があると、なお良いと思う。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			・基本的には問題ないが、突発的な職員の休みへの対応については検討する必要がある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・必要に応じてパーティションやマットで仕切るなど、視覚支援を行っている。 ・玩具や荷物などの場所を、カゴや棚を利用し見える化している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・定期的に玩具の点検を行い、破損がないか確認し消毒を行っている。 ・毎日の清掃を行い、空気の入れ替えも定期的に行っている。	・活動部屋と余暇時間の部屋が分かれていれば、さらにいい環境になると思う。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	・スペースが限られている為、完全個室はないがパーティションや棚を利用し環境を作っている。	・簡易的なスペースの確保はできているが、防音や視覚的な情報の遮断が必要。 ・完全な個室があると、さらに支援の幅が広がると思う。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	・朝礼や終礼を通して、報告、連絡、相談を行い振り返る時間を設けている。	・PDCAサイクルの取り組みは行っているものの、職員全体での参画には工夫が必要。 ・職員全員が揃っての時間を設ける事が難しい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向けの評価表の結果をもとに、ご意見等をまとめ、カンファなどで共有、検討を行ったうえで必要に応じて業務改善を行っている。	・職員全体への共有に関しては、時間の確保や共有方法の改善を考える必要がある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・月に1回カンファレンスを行い、意見交換を行っている。 ・普段のコミュニケーションも大切にし、その中で出た意見等をカンファレンスなどで共有し検討している。	・全体でのカンファレンスの場が限られている為、誰でも意見を出しやすい雰囲気作りを今後さらに作り上げていく必要がある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・第三者評価の結果に対して、職員間で会議し、業務改善を行っている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・個々の希望する研修に関しては、積極的に受講できる環境を作っている。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・HPに公表を行っています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・利用開始前に、見学や体験、関係機関と合同の担当者会議などを設けて、課題やニーズについてのアセスメントを行ったうえで計画を作成している。	・アセスメントは丁寧に行っているが、客観的に分析という点については、工夫が必要だと感じる。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・こどもの最善の利益を考慮し、職員間や関係機関とも連携を取りながら検討している。	・限られた職員での会議は行われているが、職員全体での支援会議の場に関しては、今後増やして行く必要がある。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		・まだまだ職員全体での周知には課題がある為、個別支援計画のもとに職員全員で確認する場を増やしていく必要がある。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・利用前の体験療育の場を設けたり、日々の療育を記録し、子どもの状況を継続的にアセスメントするようにしている。	・インフォーマルなアセスメントに関しては十分に行えているが、フォーマルなアセスメントに関しては課題がある。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・5領域に沿った個別支援計画書を作成している。 ・家族支援、移行支援、地域支援についても具体的な文章で設定している。			

× 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・月に一回、翌月の活動プログラムについて話し合う機会を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・毎日のルーティン活動と、週替わりの活動を準備し提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○		・必要に応じて個別対応は行っているが、個別活動よりも集団活動がメインで実施されている為、今後は個別活動もニーズに合わせて充実させていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・朝礼、昼礼にて、支援や業務の打ち合わせを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・終礼にて、支援や業務の振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・療育システムHUGにて、必ず記録を行い職員共有を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・基本的には6ヵ月に一回、さらに利用者様の状況やニーズの変更が発生した際には見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児発管や現場スタッフの他に、関係機関（保育園、幼稚園、相談支援事業所、併用事業所）も参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・同法人内の保育園や近隣の保育園、幼稚園と積極的に連携をとれる体制を整えている。 ・相談支援事業所と契約している利用者が多いため、連携を取りやすい。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・利用者の状況や家庭の状況を把握し、併用利用や他事業所への移行支援を行っている。その際には、各事業所等との情報共有会などを開催している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	・保護者より希望がある場合には情報共有を行うようにしているが、現在は該当者なし。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		・センターからの見学実施や、センター主催の研修参加、毎月の東区定例会への参加などを行い、積極的に連携を取るようにしている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・併設保育園の園庭を使用する際に関わる機会がある。	・地域との交流に関しては、現在は行っていない為、今後は増やしていけるよう計画が必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・顔の見える関係を大切にし、送迎時には直接お話をするようにしている。 ・HUG（療育システム）内の連絡帳機能やメール機能を活用している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・現在、ペアレントトレーニングについての研修を職員が受講しており、今後の支援に活かしていけるよう準備している。	・家族支援として相談を受け助言することはあるが、研修などのイベント開催は行っていない為、今後の計画が必要。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に個別で丁寧に説明を行っている。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・計画書作成前の面談時（アセスメント、担当者会議など）には、意思決定についてお話ししたうえで、利用者やご家族のご意向や思いを汲み取る機会として場を設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・計画書の開始前に必ず、対面で計画書を示しながら説明を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて、関係機関と連携しながら、合同の面談や会議を行い、情報共有や助言を行うことで多方面からの支援に繋げている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・利用者とそのご家族を対象に、芋苗の植え付け（6月）や芋ほり（11月）を行っている。	・今後はご家族向けのセミナーやイベントの計画も行っていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情等の発生に繋がる前の要求や疑問点に対して、丁寧かつ迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・事業所の情報が更新されるタイミングでHPの更新を行い、日々の活動や事業所について等、保護者や地域に向けての情報をインスタで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報の載っている書類に関しては、鍵付きの棚や引き出しなどに収納している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・必要に応じて個別対応を行っています。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・今後、Instagramをはじめとする広報活動を通して、さらに地域の方へ向けた情報発信を行っていき、地域の方との交流を計画していきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・HP等でマニュアル策定や、研修などの計画を公表し、月に1回の併設保育園合同の避難訓練や、AED研修などを行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPの策定を行い、定期的に避難訓練や研修を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・契約時や変更時に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・現在、食事提供はないが契約時にアレルギーの確認は行い、必要があれば頓服薬を預かるようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画を作成し、計画に沿って訓練や研修を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・HP内で公表している。	・全体への周知に向けては課題がある。どのような方法であれば保護者に周知しやすいのか検討が必要。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・管理者と主任とで検討した後、カンファレンスなどで対策について共有している。	・件数が少ない為、日々の些細な出来事も今後は積極的に記録していくようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・毎年、全職員で研修を受講している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○	・現在は対象者がいないが、対象者がいる場合は保護者へ丁寧説明を行い了承を得るようにしている。	・今後、対象者が発生した場合には、児童発達支援計画への記載も行っていく。